

平成27年度第2回

福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議

東京電力福島第一原子力発電所現地視察

開催報告書

日時：平成27年5月25日（月） 11：15～15：30

場所：Jヴィレッジ、福島第一原子力発電所

1 挨拶概要（Jヴィレッジ アルパインローズ）

○東京電力 石崎代表

事故から4年以上迷惑をおかけしていることに対し深くお詫び申し上げます。現在では、7,000人近くの方が働いている。復興本社としても、避難している人々に早くもどってほしいと思っており、福島の人への責任を果たしていきたい。

○東京電力 増田 CDO

4年以上も地元県の人に迷惑をかけてしまっている。県民会議でも話したが、資料だけでは分からないところもあるため、実際に現地を見てもらいたい。皆様には様々なことを指摘していただきたい。

2 現地視察（福島第一原子力発電所 構内）

東京電力が準備したバスにより、別添のルートを視察。

ポイント毎に東京電力担当者が車内マイクにより説明。随時の質問に東京電力担当者が回答。

3 質疑応答など（福島第一原子力発電所 入退域管理施設内）

（1）挨拶概要

○東京電力 小野所長

御心配をおかけして申し訳ない。5月末までに汚染水処理を行い、リスクの低い水にしていく。現在、1号機の建屋カバー解体作業を行っているが、3号機のように飛散しないように注意して行いたい。今後も、御心配をかけないよう廃炉を進めていきたい。

（2）構成員からの質疑概要（対応者：東京電力 小野所長）

○双葉町

先日、地元の大字会が開かれた。地元住民は1号機建屋カバー解体を実施

することで線量が上昇するのではないかと思っている。モニタリング等の外部へのアピールを積極的に行って欲しい。

⇒ モニタリングポストとともにダストモニタも設置しチェックしている。
早い段階で対処できるように、飛散防止剤を多くまいたり、スプリンクラーで水をまいたりすることで、放射性物質が飛散しないようにしていきたい。

○村山教授

1号機建屋カバー解体はいつ頃までかかるのか。

⇒ スプリンクラー設置はまだ先になる。ガレキ撤去も遠隔操作で行うため、安全第一に、そして、放射性物質の舞い上がりがないよう慎重に作業を進めたい。